

## 特集

# 学術フロンティア推進事業「対人援助のための人間環境デザイン」プロジェクトの発足にあたって

立命館学園の「第五次長期計画」の一環として取り組まれた人間科学分野の教学改革が2001年度より現実化する。大学院応用人間科学研究科、文学部心理学科、同哲学科教育人間学専攻、産業社会学部人間福祉学科の開設である。そして2000年度より業務を開始した心理・教育相談センターも本格稼働する。

こうした教育分野の改革にくわえて、研究面でも機構改革をおこない、人間科学分野の研究体制の強化につとめてきた。第1段階は、教育科学研究所に付置していた大学教育研究室を大学教育開発支援センターとして分離、独立させた（1998年度）。これは大学全入時代といわれるユニバーサル・アクセス時代の大学像を探るための実践的な研究をおこなう組織である。そして第2段階として、教育科学研究所を人間科学研究所へと改組した（2000年度）。

さらに、人間科学研究所に組織されていたプロジェクト研究「ヒューマンサービス/対人援助科学研究会」（代表 望月昭文学部教授）を母体にして文部省（当時）の学術フロンティア推進事業「人間科学分野」に申請をおこなった。申請した研究課題は「対人援助のための人間環境デザイン研究」である（詳細は本号所収の資料を参照のこと）。申請は採択され、大掛かりな実験装置をふくめた設備や建物建設費ならびに研究費への補助金が交付されることとなった。

2000年度の間科学研究所の活動は、こうしたハード面での整備や基礎的な研究方向の確定などの基盤整備に費やされた。新しいことを遂行しようとする孵化期につきものの、繁忙な諸業務のなかにありながらも、新しい研究所への期待を込めて、関連する分野の研究者から論文を寄せていただいた。すべて、なんらかの形で学術フロンティア推進事業や人間科学分野の教育にかかわっていただく予定の方々である。申請した研究課題をもとに簡単な研究プランについて紹介もさせていただいた（資料）。

今後の人間科学研究所の研究活動のメインとなる学術フロンティア推進事業に関連した特集を組み、記念すべき第1号（通巻17号）として刊行することとした。

また、上記の新研究科、新学科の設置について、文部省（当時）から設置認可をいただいたことを記念して、人間科学研究所が関連分野の先生方の調整をさせていただき、2001年1月に「対人援助の時代と学問」と題して人文科学研究所主催の土曜講座において特集を組ませていただいた。4回の講座の演題と講師は以下のものであった。

第1回 1月13日「対人援助と自己決定 『障害』とは何か？」

文学部教授 望月昭

第2回 1月20日「心理臨床のなかの子どもと家族」

女性ライフサイクル研究所長・臨床心理士 村本邦子

第3回 1月27日「臨床教育学の可能性 『こころ』と『からだ』の視点から」

経営学部非常勤講師 中川吉晴

第4回 2月3日「痴呆老人を理解する 福祉社会学からのアプローチ」

広島大学総合科学部助教授 石倉康次

このたび、本紀要に講座でのお話を講演録として掲載させていただくこととなった。ここでご協力いただいた先生方もなんらかの形で学術フロンティア推進事業にかかわっていただく予定である。なお、望月教授の講座については、『立命館人間科学研究』の第2号に掲載される論考に活かされているので、今回は三人分を掲載することとした。いずれの講座も市民の関心が高く、多数聴講いただいた。質疑応答もいつになく熱を帯び、予定の時間をずいぶんとオーバーした。対人援助に関しては、知的関心も含めて社会のニーズが高く、引き続き学問研究の立場から貢献していきたいと考えている。

講師の先生方、聴講された市民のみなさん、そして土曜講座の特集を組むにあたりご助力いただいた人文科学研究所のみなさんに記して感謝申し上げる次第である。

人間科学研究所専任研究員 中 村 正